

新 刊 案 内

R C D 工 法 施 工 技 術 資 料

<編集> RCD工法整理検討会

<発行> 一般財団法人ダム技術センター

RCD工法は、これまで多くの重力式コンクリートダムで採用され、施工の安全性の確保や工期短縮、経済性に寄与してきたところであります。その基本となる施工法（以下、「基本施工法」という。）は、①RCDコンクリート先行打設、②外部コンクリート独立・後行打設、③型枠を用いないRCDコンクリートの打止め、であります。

この基本施工法を用いたRCD工法は、嘉瀬川ダム（九州地方整備局）で最初に開発・採用され、引き続き湯西川ダム（関東地方整備局）、津軽ダム（東北地方整備局）、五ヶ山ダム（福岡県）の本体施工に適用され、その効果が実証されてきました。また、五ヶ山ダムや鶴田ダム再開発（九州地方整備局）では、粗骨材最大寸法40mmのRCD用コンクリートを開発することによって、河床着岩部から狭隘となる高位標高までの本体施工が実施され、このことにより堤体ほぼ全域を一貫したRCD工法で効率的に施工できるようになりました。

本書は、このような近年の技術的進展を背景に、現時点での最新のRCD工法の知見と実績について整理しとりまとめたものであります。

◆目次

第1章 RCD工法の概要

- 1.1 概説
- 1.2 RCD工法による施工
- 1.3 RCD工法の特徴

第2章 RCD工法の基本技術と RCDコンクリート

- 2.1 使用する基本技術
- 2.2 確認試験
- 2.3 RCDコンクリート

第3章 一般部の施工法

- 3.1 RCDコンクリートの先行打設
- 3.2 RCDコンクリートの打止め・打継ぎ
- 3.3 外部コンクリートの独立・後行打設
- 3.4 堤内構造物周辺の打設
- 3.5 水平打継面処理
- 3.6 上下流面型枠の早期移動
- 3.7 コンクリートの養生
- 3.8 若材齢のRCDコンクリート面上のダンプトラック走行
- 3.9 資機材の移動方法
- 3.10 降雨時や休日前等での打設中断・再開時の対応

第4章 着岩部RCD工法による施工

- 4.1 概説
- 4.2 着岩部付近の基礎掘削
- 4.3 吹付工法による着岩面へのモルタル敷設
- 4.4 着岩部RCD工法の施工

第5章 高標高部及び狭隘部の RCD工法による施工

- 5.1 概説
- 5.2 使用するRCDコンクリート
- 5.3 RCDコンクリートの敷均し・締固め
- 5.4 RCDコンクリートの打止め・打継ぎ

第6章 確認試験

- 6.1 概説
- 6.2 基本技術に関する確認試験
- 6.3 着岩部RCD工法に関する確認試験
- 6.4 高標高部及び狭隘部のRCD工法に関する確認試験

第7章 施工計画

- 7.1 概説
- 7.2 施工計画の検討手順
- 7.3 施工計画の基本検討
- 7.4 施工計画の詳細検討

A4版・約280頁・価格5,000円（税込み、送料別）

※書籍ご購入の方はダム技術センターHP（注文FAX）よりお申し込みをお願い致します。

【お問い合わせ】 一般財団法人ダム技術センター 企画部 図書販売係
〒110-0008 京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F
TEL : 03-5815-4161 FAX : 03-5815-4162
E-mail : books@jdec.or.jp
ホームページ : <http://www.jdec.or.jp/>

